友愛の森(二中だより)

学校教育目標　　二中文化を創造する生徒

学びが深まる授業の創造・認め合える学級の創造・共に高め合う学校の創造

令和５年 12 月１日発行

一秒の言葉 ～11 月全校朝礼より～

校 長　望 月　俊 伸

10 月 24 日（火）に希翔祭文化の部が、11 月９日（木）には、運動の部が行われました。お忙しい中、応援に駆けつけていただいた、ご来賓の皆様、保護者の皆様に、この場を借りて改めて感謝申し上げます。ＰＴＡ役員の皆様には保安係や、駐車場警備を行っていただきました。**お陰様をもちまして、大きなトラブルや事故もなく、子どもたちの思い出に残る素晴らしい希翔祭となりました。ありがとうございました。**

運動の部の実施に関しましては、インフルエンザの流行や悪天候のため、２度の延期となってしまい、多くの方々にご心配やご迷惑をおかけしました。これは裏話ですが、一時期は全校一斉の開催は難しいだろうと考え、学年別開催も視野に入れて準備をしていました。**どうにか、全校で実施できたことに、胸をなで下ろしているところです。**とは言え、インフルエンザや体調不良のため、**残念ながら行事に参加できなかった生徒もいました。その人たちが、これからの学校生活の中で、少しでも楽しい思い出ができるよう、職員全員でフォローしていきたいと思います。**さて、今年度の希翔祭は『グラデーション』をスローガンに掲げ、生徒たちは限られた時間の中で、日々の練習に取り組んできました。その中で、**私が注目したのが「声援」です。特に運動の部では、自分のクラスや軍を応援するのは当然ですが、生徒たちの声援は、それだけに留まっていませんでした。頑張っている人がいたら、クラスを超え、学年を超え、紅・白・青の軍を超えて、「頑張れ！」「頑張って！」の声が向けられていました。それが嫌みではなく、とても素直で、心から出ている言葉であると感じました。**

よく、「頑張れ！」「頑張って！」という言葉を嫌う人がいます。「これだけ頑張っているのに、まだ頑張れと言うのか。」「頑張れと言うのは、頑張っていない人に対して掛ける言葉じゃないのか。」

私は、「頑張れ！」「頑張って！」という言葉の中には、いろんな意味が込められているのだと思います。

「大丈夫だよ」「心配しているよ」「安心してね」「あなたのそばにいるからね」「今のままでいいんだよ」・・・

先日、仙台育英学園高等学校　硬式野球部監督　須江航さんの講演を聞く機会がありました。仙台育英高校の須江監督と言えば、昨年の 2022 年８月、第 104 回全国高等学校野球選手権大会で優勝、東北勢初の全国制覇に導いた方です。今年の第 105 回大会でも強豪を撃破し、決勝戦まで進出を果たし準優勝を飾りました。その原動力となったのが、監督からではなく周囲の皆さんから掛けられた「ある言葉」だったそうです。昨年、初優勝をした時、地元仙台の人たち、**東北の人たちから掛けられた言葉は、「おめでとう」ではなく、「ありがとう」だったそうです。選手たちはその言葉からたくさんの勇気とエネルギーをもらい、「よし今年も！」という気持ちになったそうです。**

「ありがとう」普段はなかなか恥ずかしくて口に出せない言葉かもしれません。しかし、これほど相手に自分の気持ちが真っ直ぐに届く言葉もありません。心の中にしまっておかず、勇気を出して相手に伝えてみてください。「頑張れ！」「頑張って！」と同じくらい、この一秒ほどの短い言葉には、計り知れない力が宿っています。新たな二中文化の１つである「心のこもった温かい挨拶」と共に、二中が「ありがとう」でいっぱいの学校になるといいなと思います。

最後に、『一秒の言葉』という小泉吉宏さんの詩を紹介します。この詩は、かつて時計メーカーSEIKO のコマーシャルで使われていました。

一秒の言葉　小泉吉宏

「はじめまして」　この一秒ほどの短い言葉に、一生のときめきを感じることがある
「ありがとう」　この一秒ほどの短い言葉に、人の優しさを知ることがある
「がんばって」　この一秒ほどの短い言葉で、勇気がよみがえってくることがある
「おめでとう」　この一秒ほどの短い言葉で、幸せにあふれることがある
「ごめんなさい」　この一秒ほどの短い言葉に、人の弱さを見ることがある
「さようなら」　この一秒ほどの短い言葉が、一生の別れになる時がある

一秒に喜び　一秒に泣く　　一生懸命　一秒

第 29 回 希翔祭 「文化の部」（10月 24 日）

第 29 回 希翔祭 「運動の部」（11 月9日）